

3月定例会 市議会 党議員の一般質問予定

3月定例会の一般質問(18~24日)は、32人中27人が行います。日本共産党の3人の議員の予定日と質問内容は次の通りです。ぜひ、傍聴をお願いいたします。

上野公悦議員 (18番目 3月23日(水) 午後の見込み)

1. 公の施設の適正配置のありかたについて

市長は「適正配置をはじめとする行財政改革の取組は避けて通れない」と答弁したが、次の点について市長の考えを聞きたい。

ア. 市長は「前市政からの転換」を強調しているが、違いが見えない。今後、どのように公の施設の適正配置を進めていくのか。

イ. 市民いこいの家とろばた館は、地域住民の憩いの場・交流の場として存続を求める署名活動等も行われているが、この声をどうとらえているか。施設を存続すべきと思うがどうか。

2. 新型コロナ拡大下での支援について

蔓延防止等重点措置が解除されたが、飲食店関連事業者や生活困窮者は依然厳しい状況である。

ア. この状況を市ではどう把握しているか。

イ. 厳しい状況に苦しむ生活困窮者、事業者に対する新たな支援拡大の考えはないか。また支援財源として財政調整基金を取り崩す考えはないか。

平良木哲也議員 (22番目 3月24日(木) 午前の見込み)

1. 地域の医療を守ることにについて

医療体制について、地域医療構想との関連も含め具体的に答えられたい。

(1) 市内の医療提供体制の将来像をどう考えるか。

(2) 「市民の視点から安心して暮らせるような体制」とは、どのような体制をさしているのか。またそのためにどうしていくべきと考えるか。

(3) 上越市内あるいは上越医療圏の医師不足の現状をどのように捉えているか。

2. 子育て支援について

「子育て全国一を目指す」としているが、次の各点について具体的にどう実現していくのか。

(1) 子育て支援の視点をどう捉えているか。

(2) 子ども医療費の完全無料化と、給食費の無料化についてはどう考えているか。

(3) 子育て支援全体の取組は、今後どのようなロードマップをもって進めていく考えか。

橋爪法一議員 (25番目 3月24日(木) 午後の見込み)

1. ロシアのウクライナ侵略と平和政策について

(1) ロシアのウクライナ侵略を契機に一部で「核共有」論が出ているが市長の認識はどうか。

(2) 非核平和友好都市のトップとして核兵器禁止条約批准を政府に働きかけるべきではないか。

(3) 中学生の広島訪問は重要。平和記念式典が仮に中止されても被爆地を訪問してもらうことが大切だと思うが市長の認識はどうか。

2. 市長の「地域独自の予算」などについて

(1) 地域活動支援事業の廃止、新年度の取組について、地域協議会の理解は得られたのか。

(2) 市長の考える「目指す地域分権」では、第7次総合計画との関連をどう整理しているか。

(3) 市長の「地域独自の予算」を地域計画に基づくものに発展させる考えはないか。

3. 豪雪対策について

(1) 豪雪対策を進める上で、「豪雪そのものが災害である」との認識が基本だと思うがどうか。

(2) 災害救助条例・救助法の適用基準の見直しを県・国に働きかけるべきと思うがどうか。

(3) 要援護世帯除雪費助成制度の見直し状況と制度改善の見直しについて聞きたい。

「ある程度の統合は必要」「切るところは切る」 総括質疑への市長答弁



3月定例会市議会は3月2日に開会し、初日は市長の提案説明とそれに対する質疑が行われました。

日本共産党議員団からは橋爪議員が代表して質疑に立ち、市政運営における市長の基本姿勢や保育園の間移管への姿勢、地域医療の確保への施策、地域自治への考え方、公の施設の配置見直しに関する前市政への評価などをたどりました。

この中で橋爪議員は、医療人材の確保や在宅医療の充実の取組と地域医療構想との関連をたどりました。

これに
対して中
川市長は
「都市部
に集中し
ている若
手を中心
とした医
療人材を
呼び込み
、地域医
療の担い
手を確保
す

る視点を持つて県や医療機関と連携し、人材受入れのための環境整備と仕組みづくりに取り組む必要がある。地域医療構想との関連を意識したのではない」と答えました。

これに対して橋爪議員が「国の地域医療構想では、どう見ても再編統合が進められる。この地域医療構想とは明確に対決する姿勢を明らかにしてほしい」と迫りました。

ところが市長は、「医師を確保し、周辺部でも確実に医療を受けられるようにしたい」としながらも、「ある程度の統合は必要であると考えている」と答えました。市内の病院は現時点でそれぞれ重要な役割を果たしていることから、少しでも統合したりすると市民に直接影響しますので、看過できない問題です。

また、保育園の民間移管で橋爪議員が「運営が困難になったり、保育士の処遇が低下したり、保育条件が低下したりする懸念はないのか」とたどったのに対しては、「一定の児童数の確保が見込まれる園を移管対象としており、経営困難になること

はない。保育士の処遇も国の公定価格による委託料を支払うので、他の私立園と比べ低下しない」と答えました。保育士の処遇は、私立園のほとんどが公立と比べて極めて悪いことが問題ですが、その点への視点を欠いた答弁です。

さらに、公の施設の配置問題では、「市民の声は聞く。その上で再度判断する」としつつも、「財政が厳しいので、どこを削るかの問題だ。切るところは切る」と答弁しました。この姿勢は、村山市政を継承して、現に市民が利用している施設を含めて譲渡や廃止を断行する考えであることを示唆していると捉えざるを得ません。

今後、こうした基本姿勢をさらにたどっていく必要があると思います。

PCR検査等実施件数 (3月4日現在)	
PCR検査実施件数	25,311件(前週+ 473)
陽性件数	1,221件(前週+ 77)
抗原検査実施件数	12,923件(前週+ 700)
陽性件数	423件(前週+ 51)
上越市内陽性件数	1,256件(前週+ 101)

日本共産党上越市議員団ニュース
No.744 2022年3月13日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))